

# インタビュー

Tomoiki Interview

文/浅井貴仁 (エディトリアル株式会社)

## 兄妹で世界を目指す

余郷さくらさん

アルペンスノーボーダー

Profile

よごうさくら●2003年、神奈川県生まれ。3歳でスノーボードを始め、中学2年生から公式戦大会に出場し始め、高校1年生で海外のレースデビュー。高校2年生でナショナルチーム入りを果たし、高校3年生でジュニア全日本選手権優勝、ジュニア世界選手権に出場。大学へ入学後は1年間休学をし、カナダ・ヨーロッパでのトレーニングを経て、全日本選手権で準優勝。

急傾斜の雪上を駆け下りるスピードを争う競技、スノーボードアルペン。神奈川県横須賀市在住の余郷隆正さんと妹のさくらさんは、その中でも主にパラレル・スラローム（回転）とパラレル・ジヤイアント・スラローム（大回転）という、旗門の設置されたコースを同時に2人が滑りタイムを

競う種目で活躍し、強化指定選手にも選ばれている。また兄の隆正さんは、将来実家の法蔵院を継ぐために仏門に入り、浄土宗僧侶・スノーボーダー・幼稚園の職員という3足のわらじをはいている。ほとんど雪の降ることのない横須賀から世界を目指す、余郷兄妹に話を伺った。

## ともしき

## 海沿いのお寺から

余郷隆正さん

アルペンスノーボーダー



よごうりゅうしょう ●2001年、神奈川県生まれ。幼稚園年長よりスノーボードを始め、2018年よりスノーボードアルペン競技をスタート。2021年には国内強化指定選手となり、世界ジュニア選手権大会に派遣、5年目の2023年には強化指定選手となり、海外遠征や派遣で世界のトップを目指している。僧侶としては、2022年12月に大本山増上寺にて加行成満。2024年より法蔵院副住職。

スピードと勝敗のわかりやすさが  
スノーボード・アルペン競技の魅力

——法蔵院のすぐ目の前にはウインドサーフィンの  
ワールドカップも開催される津久井浜海岸が広がり、  
山よりも海のほうが身近なように思いますが、スノ

ーボードを始めたきっかけを教えてください。

余郷隆正（以下隆正）／幼稚園の年中の頃から父に  
長野県の山に連れて行ってもらっていたので、その  
影響が大きいです。最初はスキーをやっていたので  
すが、途中からスノーボードをするようになりました  
た。中学、高校では他のスポーツをやっていたので

すが、2018年に、妹が先にやっていたスノーボードアルペン競技を、私をはじめました。

習内容は別ですが、今は兄に車を運転してもらって、一緒に山へ練習に行っています。

——アルペン競技は、さくらさんのほうが先だったのですかね。

——スノーボードの魅力とは何でしょうか？

**余郷さくら**（以下さくら）／はい。私は3歳でスノーボードを始めて、アルペンのレースを始めたのは、中学1年生の時です。

**隆正**／アルペン競技の魅力のひとつは、スピードです。ボードの端のエッジだけで滑ることをカービングというのですが、本当に速いときは時速60

から70kmくらいでターンします。とてもスピードが出るところが、一番の魅力だと思います。僕たちが滑っている競技は「パラレル」といって、予選でコースを2回滑って、上位16番目までが決勝に進めます。決勝では1位と16位、2位と15位という具合に2人ずつレースをしますが、決勝に残っているレベルの高い選手2人が同時に滑ってくるので、他のレース競技よりもどちらが勝ったか視覚的にもわかりやすく、面白いと思います。



——さくらさんからしたら、お兄さんはライバルのようには感じたのでしょうか？

——レースを拝見すると、倒れてしまうんじゃない

**さくら**／ライバルというよりも、「一緒に楽しくできるな」と思いました。男女ではタイムが違うので練習

ますね。

——倒れているように見えていると思いますが、

**隆正**／倒れているように見えていると思いますが、

滑っている側は、実はそういう感覚ではないんです。遠心力と釣り合えるように姿勢を保たないといけないので、自分たちとしては体を倒して滑っているというよりは、まっすぐ雪に立つようなイメージで滑っています。ターンしてからまた加速させていく瞬間が、僕は好きです。

**さくら**／スノーボードと聞いて想像するのは「ジャンプする競技」だと思いますが、アルペンはスピード競技なので、誰が見ても勝敗がわかりますし、タイムだけで勝負が決まるのが、私も魅力だと思います。

## オリンピックという 大きな目標に向け トレーニングを重ねる日々

——コーチも含め、ご両親のサポートなどはありますでしょうか？

**隆正**／今は免許を持っているので自分で運転しますが、学生の頃は山への送り迎えをしてもらっていたことや、金銭面でのサポートはとてもありがたかったです。また、スポンサーさんに支援をしていただいています。そういったマネジメントも父がして



余郷さくらさん



余郷隆正さん

らじといえますが、両立はどのようにされているのでしょうか？

**隆正**／あまり両立できていないかもしれませんが、法事がある時やお盆の時期は手伝っていますが、それ以外は、今は主に幼稚園のほうの仕事をしています。

くれています。  
**さくら**／私も中学校の時にレースを始めて、土日は毎週、山に行っていたので、送り迎いや金銭面でサポートしてもらっていることに、とても感謝しています。

——**隆正**さんは、アスリートだけでなく、現在はお寺の副住職もされています。また、法蔵院さんには幼稚園もあって、そちらの職員としても働いています。か。まさに、三足のわ

す。17時に幼稚園の仕事が終わったなら、それから自宅でトレーニングをしています。

——お二人とも、目標はオリンピック出場だと思えますが、それに向けて、今後はどのような目標や展望がありますでしょうか？

**さくら**／オリンピックは競技を始めた時からの一つの大きな目標です。その目標に向けて、まず今シーズンには、全日本選手権の優勝を目標に頑張っています。滑るテクニクも大事ですが、スノーボードでは、下る時にとっても体力を使うので、フィジカルが極めて大切なんです。だから、今日本でできることとして、フィジカルを強化していきたいと思っています。

——日本人と海外の選手では、体の大きさなど、フィジカル面で海外の選手の方が有利だったといったことはあるのでしょうか？

**隆正**／「回転」と「大回転」のうち、特に大回転は体の大きい外国人の方が有利だと思います。ただ、体格差というよりは、大会はヨーロッパやアメリカなどでの開催が多く、日本から海外の大会に行くのも

大変なので、そういう地理的な要因のほうが海外選手は有利だなと思います。

——移動に時間やコストがかかりますからね。隆正さんの今後の展望も教えてください。

**隆正**／僕もオリンピックを目指して頑張っています。近い目標としては、ワールドカップに出場することを目指しています。そのために、もちろんフィジカルやスキルも大切なんです。メンタル面の強化が今の課題です。一対一で滑って、もう一人の選手に勝つというのはプレッシャーが大きくかかります。例えば、隣を滑っている選手が、少し前にいるように見えるだけでも、とても焦ってしまいます。偶然、雪がかかってきて、コースが見えないこともあります。すぐそばで相手の息遣いを感じながら滑らなければならず、ほんの一瞬のミスでタイムが1〜2秒もロスしてしまうんです。

——いかに動揺しないで、自分の滑りができるかが大切ということですね。隆正さんは、競技の面だけでなく、今後はお寺を継いで行かれるということを決めているそうですね。

**隆正**／はい、いずれはお寺と幼稚園を継ぐことを決めていきます。今から意識して、競技のほうもしっかり取り組んでいこうと思っています。

**さくら**／私は卒業したら企業に就職して、アスリート社員としてスノーボードを続けていくことを考えています。その点、兄はみんなと違う方法でスノーボードを続けられるのはいいな、とちよっとうらやましいです（笑）。

## 寺院で得た謙虚な気持ちを持ち その上で結果を出して 皆さまにご恩返しをしたい

——最後に浄土宗の教えや、お寺での経験でスノーボードに生きていることはありますか？

**隆正**／お寺ではたくさんのお檀家さんと接しますが、その中で、小さい頃から大切にされてきたんだな、と感じる機会が多いです。そういうお寺での人間関係から学ぶことがたくさんあります。スポーツの世界というのは実力の世界なので、ある意味で「結果を出せばいい」という風に驕おごってしまいう危険性もあります。でも、そうではなくて、一人の人間として、

謙虚な気持ちを持つことが大切だと思っています。僧侶になってから、そのことをたびたび感じるようになってきました。その上でアスリートとしてきちんと結果を出して、今まで育てていただいたご恩返しをしたいと思っています。

**さくら**／私は小さい時からスノーボードをずっとやってきたので、それが当たり前みたい感じていました。でも、競技を始めて海外に行ったり、いろいろなところで競技活動ができたたりするのは、多くの人に支えられているからで、当たり前のことじゃないと思っています。関わってくださっている皆さんに感謝の気持ちを持つようにしています。

